

ℓ IC 方式への Fouque 等の 攻撃法について

小椋 直樹, 内山 成憲

首都大学東京 大学院理工学研究科 数理情報科学専攻

2008 年 7 月 5 日

目的

- ℓ IC / ℓ IC- (MQ問題に基づく署名方式) への FGPS 攻撃法と異なる効率的な攻撃法の提案
 - ▶ ℓ が偶数の場合についても実装
 - ★ [FGPS 08] の実装は ℓ が奇数の場合のみ
 - ▶ ℓ が偶奇各々の実装実験/計算量評価

FGPS = Fouque, Gilles, Perret, Stern

目次

- 1 ℓ IC / ℓ IC-
- 2 FGPS 攻撃法
- 3 提案攻撃法 (ℓ IC)
- 4 提案攻撃法 (ℓ IC-)
- 5 実験結果
- 6 まとめ

目次

- 1 ℓ IC / ℓ IC-
- 2 FGPS 攻撃法
- 3 提案攻撃法 (ℓ IC)
- 4 提案攻撃法 (ℓ IC-)
- 5 実験結果
- 6 まとめ

- Ding, Wolf, Yang によって提案 (2007)
- 多変数連立 2 次方程式の求解 (MQ 問題) に安全性の根拠をおく
 - ▶ NP-hard
 - ▶ 量子多項式時間アルゴリズムも知られていない
- 署名の生成/検証が高速
- Fouque 等による攻撃法の提案 (2008)
 - ▶ SFLASH への攻撃法のうち, Patarin attack を利用せず
 - ▶ F_4 アルゴリズム (Gröbner 基底を使った一般的な攻撃法)

[鍵生成]

秘密鍵: (S, T)

- ① 全単射 Affine 変換 $S : F_q^n \rightarrow F_q^n$ を構成
(n 次正則行列 S_L と n 次元ベクトル S_C を選び,
 $S(x) = S_L \cdot x + S_C$)
- ② 全単射 Affine 変換 $T : F_q^n \rightarrow F_q^n$
(行列 T_L とベクトル T_C) を構成

[鍵生成]

公開鍵: P

① $P = T \circ F \circ S$ を構成

ただし, $A = (A_1, A_2, \dots, A_\ell) \in F_{q^{n/\ell}^\ell}$ について,
 F は Cremona 変換の拡張

$$F(A) = \begin{cases} (A_1A_2, A_2A_3, \dots, A_\ell A_1) & [\ell : \text{odd}] \\ (A_1^2A_2, A_2A_3, \dots, A_\ell A_1) & [\ell : \text{even}] \end{cases}$$

($F_{q^{n/\ell}^\ell}$ と F_q^n を同一視)

[署名]

メッセージダイジェスト $V \in F_q^n$

- ① V に対し, 署名を $P^{-1}(V) = S^{-1}(F^{-1}(T^{-1}(V)))$ とする

[検証]

メッセージダイジェスト $V \in F_q^n$, 署名 Y

- ① $P(Y)$ が, V と一致するか確認

射影 $\Pi : F_q^n \rightarrow F_q^{n-r}$ によって, $\Pi P = \Pi \circ P$ を構成
 P の代わりに ΠP を公開鍵とする

提案パラメータは以下の通り

- $q = 2^8, n = 30, \ell = 3, k = 10, r = 10$
- $q = 2^8, n = 36, \ell = 3, k = 12, r = 12$
- $q = 2^8, n = 48, \ell = 3, k = 16, r = 16$

目次

- ① ℓ IC / ℓ IC-
- ② FGPS 攻撃法
- ③ 提案攻撃法 (ℓ IC)
- ④ 提案攻撃法 (ℓ IC-)
- ⑤ 実験結果
- ⑥ まとめ

FGPS 攻撃法

- Patarin attack を用いず, Gröbner 基底アルゴリズム F_4 を適用
- 効率的な実装
($q = 2^8$, $n = 30$, $\ell = 3$, $k = 10$ で 0.7 秒)
- 計算量 $O(n^{4\omega})$ ($2 \leq \omega < 3$) (実験結果からの推測)
- 秘密鍵として線形変換を仮定
- ℓ が偶数の場合を実装せず

提案攻撃法

- Patarin attack を応用
- 実用的
- 厳密に計算量を評価 (ℓ 小なら n の多項式時間)
- 秘密鍵として一般の Affine 変換とする
- ℓ が偶奇各々の場合を実装

目次

- 1 ℓ IC / ℓ IC-
- 2 FGPS 攻撃法
- 3 提案攻撃法 (ℓ IC)**
- 4 提案攻撃法 (ℓ IC-)
- 5 実験結果
- 6 まとめ

EC への攻撃法

- 1 Affine 変換を線形変換へと変換 [GSB 01]
- 2 偽署名生成式による署名の偽造 [Patarin 95]

ECへの攻撃アルゴリズム

入力: 公開鍵関数 P , パラメータ q, n, ℓ , メッセージ m

出力: V に対する正当な署名

{(線形変換への帰着)}

$\{v_j\} \leftarrow P$ の線形部

$\{\zeta_{ij}\} \leftarrow P$ の双線形部

$vspace \leftarrow v_j$ の Kernel

$v \leftarrow vspace$ のうち v が満たす方程式の解ベクトル

$P_L(x) := P(x - v) - P(-v)$

{(署名の偽造)}

$\{\gamma^{(k)}, \gamma'^{(k)}\} \leftarrow$ 偽署名生成式を満たす $\{\gamma^{(k)}, \gamma'^{(k)}\}$ 空間

$V \leftarrow m$ にハッシュ関数を適用して生成した K^n の元

$y \leftarrow V - P(v)$

$xspace \leftarrow y$ に対して, 偽署名生成式を満たす x の空間

$x \leftarrow xspace$ のうち, $y = P_L(x)$ を満たすベクトル

return $x - v$

線形変換への帰着

Affine 変換を, 線形変換に帰着

$$S(x) = S_L \cdot x + S_C$$

↓

$$S(x - v) := S_L \cdot x$$

以下の式から, $K \neq F_2$ である限り, v の計算が可能

$$\sum_j v_j^{(k)} x_j - \sum_{1 \leq i < j \leq n} \zeta_{ij}^{(k)} (v_i x_j + v_j x_i) = 0$$

$(v_j^{(k)}, \zeta_{ij}^{(k)})$ は, 公開鍵 P から分かる F_q の元)

よって, S, T は線形変換としてよい

署名の偽造

ℓ : even の場合:

$$\begin{aligned}(B_1, \dots, B_\ell) &= F((A_1, \dots, A_\ell)) \\ &= (A_1^2 A_2, A_2 A_3, \dots, A_\ell A_1)\end{aligned}$$

⇓(Linearization)

$$A_3 B_1 - A_1^2 B_2 = 0, \dots, A_2 B_\ell^2 - A_\ell^2 B_1 = 0$$

よって, $y = P(x)$ について,

$$\sum_{i,j} \gamma_{ij} x_i y_j + \sum_i (\alpha_i x_i + \beta_i y_i) + \delta = 0$$

なる $\gamma_{ij}, \alpha_i, \beta_i, \delta$ が存在
この式から署名の偽造が可能

目次

- 1 ℓ IC / ℓ IC-
- 2 FGPS 攻撃法
- 3 提案攻撃法 (ℓ IC)
- 4 提案攻撃法 (ℓ IC-)**
- 5 実験結果
- 6 まとめ

ℓ IC- への攻撃法

- ① Affine 変換を線形変換へと変換 [GSB 01]
- ② 差分による射影除去部分の補完 [DFSS 07]
- ③ 偽署名生成式による署名の偽造 [Patarin 95]

ℓIC- 攻撃アルゴリズム (1/2)

入力: 公開鍵関数 ΠP , パラメータ q, n, θ, r ,
メッセージダイジェスト V

出力: V に対する正当な署名

{{線形変換への帰着}}

$\{v_j\} \leftarrow \Pi P$ の線形部

$\{\zeta_{ij}\} \leftarrow \Pi P$ の双線形部

$vspace \leftarrow v_j$ の Kernel

$v \leftarrow vspace$ のうち v が満たす方程式の解ベクトル

$\Pi P_L(x) := \Pi P(x - v) - \Pi P(v)$

{{差分による射影除去部分の補完}}

$\Pi DP_L(a, x) := \Pi P_L(x + a) - \Pi P_L(x) - \Pi P_L(a) + \Pi P_L(0)$

$Nspace \leftarrow \Pi DP_L$ からなる方程式を満たす空間

lIC- 攻撃アルゴリズム (2/2)

while true do

 {(署名の偽造)}

$N_\xi \leftarrow N_{\text{space}}$ のうち, スカラー行列でない正則行列

$P_f \leftarrow \Pi P_L$ に加えて, $(\Pi P_L) \circ N_\xi$ を使って,

 full rank に戻した $F_q^n \rightarrow F_q^n$ 関数

$\gamma\text{space} \leftarrow$ 偽署名生成式を満たす $\{\gamma^{(k)}, \gamma'^{(k)}\}$ 空間

 if $\text{rank}(\gamma\text{space}) \leq n$ then

$\{\gamma^{(k)}, \gamma'^{(k)}\} \leftarrow \gamma\text{space}$

 break

 end if

end while

$y \leftarrow V - \Pi P(v)$ に適当に座標を加えて作った F_q^n の元

$x\text{space} \leftarrow y$ に対して, 偽署名生成式を満たす x の空間

$x \leftarrow x\text{space}$ のうち, $y = P_f(x)$ を満たすベクトル

return $x - v$

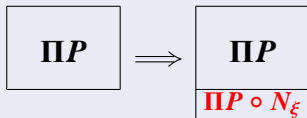
差分による射影除去部分の補完 (1/4)

$$\Pi P = \Pi T \circ F \circ S$$

に対して,

$$\Pi P \circ N_\xi = \Pi T_\xi \circ F \circ S$$

なる N_ξ を見つけて, 射影 Π の除去部分を補完



差分による射影除去部分の補完 (2/4)

N_ξ を求めるために、以下の差分を使用

$$DP(A, B) := P(A + B) - P(A) - P(B) + P(\mathbf{0})$$

S, T が線形変換のとき、

$$DP(A, B) = T \circ DF(S(A), S(B))$$

$F(A) = (A_1^{q^{\lambda_1}} A_2, A_2^{q^{\lambda_2}} A_3, \dots, A_\ell^{q^{\lambda_\ell}} A_1)$ について、

$$DF(A, B) = (A_1^{q^{\lambda_1}} B_2 + B_1^{q^{\lambda_1}} A_2, \dots, A_\ell^{q^{\lambda_\ell}} B_1 + B_\ell^{q^{\lambda_\ell}} A_1)$$

となるから、次の式が導ける

差分による射影除去部分の補完 (3/4)

$$BS_{N_\xi}^{(k)} = DP^{(k)}(N_\xi(A), B) + DP^{(k)}(A, N_\xi(B))$$

について,

$$BS_{N_\xi}^{(k)} \in \text{Span}\{DP^{(1)}, \dots, DP^{(n)}\}$$

このままでは射影 Π で消える $DP^{(n-r+1)}, \dots$ が含まれてしまう

差分による射影除去部分の補完 (4/4)

l : even の場合:

$$BS_{N_\xi}^{(k)} \in \text{Span}\{DP^{(1)}, \dots, DP^{(n)}\}$$

を,

$$BS_{N_\xi}^{(k)} \in \text{Span}\{DP^{(1)}, \dots, DP^{(n-r)}\}$$

で計算

$k = 1, 2, 3$ として方程式を解くことで実際に N_ξ の導出に成功

目次

- 1 ℓ IC / ℓ IC-
- 2 FGPS 攻撃法
- 3 提案攻撃法 (ℓ IC)
- 4 提案攻撃法 (ℓ IC-)
- 5 実験結果**
- 6 まとめ

実装環境

	FGPS 実験	本実験
実装状況	ℓ :oddのみ	ℓ :even & odd
ℓ ICへの攻撃	F_4 アルゴリズム	Patarin's attack
CPU	2GHz Opteron	同等
ソフトウェア	Magma	Magma
秘密鍵	線形のみ	Affine

実験結果 (1/2)

evenIC に対する攻撃 ($q = 2$)

ℓ	2	2	4	6
n	120	240	240	240
k	60	120	60	40
time[s]	327.1	5630.3	5618.9	5668.3

実験結果 (2/2)

3IC-に対する攻撃 ($q = 2^8$)

n	30	36	48
k	10	12	16
r	10	12	16
time[s]	34.1	79.3	321.6

計算量 & 考察

計算量は、偽署名生成式を生成する step が中心

$$\begin{cases} O(n^{3(\ell+1)/2} \lg^2 q) & [\ell : \text{odd}] \\ O(n^6 \lg^2 q) & [\ell : \text{even}] \end{cases}$$

- 3IC-で $q = 2^8$, $n = 48$ でも 5 分半で解読
- FGPS より遅いが、実用的であり、実装も容易

まとめ

- 今回の結果
 - ▶ l IC / l IC- への FGPS とは異なる攻撃法の提案
 - ▶ l が偶奇各々について実装実験
 - ▶ 実用性を確認
- 今後の課題
 - ▶ 一般の MQ 問題に適用される範囲の解析
 - ★ HFE⁻, Quartz 等

署名の偽造 (ℓ :odd) (1/2)

$$\begin{aligned}(B_1, \dots, B_\ell) &= F((A_1, \dots, A_\ell)) \\ &= (A_1A_2, A_2A_3, \dots, A_\ell A_1)\end{aligned}$$

⇓(Linearization)

$$A_3B_1 - A_1B_2 = 0, \dots, A_2B_\ell - A_\ell B_1 = 0$$

先と同様に, $y = P(x)$ について, x と y の関係式を生成線形従属関係を含んでいるので, **最悪 $2^{n/\ell}$ 個の探索が必要**

署名の偽造 (ℓ :odd) (2/2)

$$\begin{aligned}(B_1, \dots, B_\ell) &= F((A_1, \dots, A_\ell)) \\ &= (A_1 A_2, A_2 A_3, \dots, A_\ell A_1)\end{aligned}$$

⇓(Linearization)

$$\begin{aligned}B_1 B_3 \dots B_\ell - A_1^2 B_2 B_4 \dots B_{\ell-1} &= 0 \\ \vdots & \\ B_\ell B_2 \dots B_{\ell-1} - A_\ell^2 B_1 B_3 \dots B_{\ell-2} &= 0\end{aligned}$$

先と同様に, $y = P(x)$ について, x と y の関係式を生成
この式から署名の偽造が可能

N_ξ の計算 (ℓ :odd)

$$BS_{N_\xi}^{(k)} \in \text{Span}\{DP^{(1)}, \dots, DP^{(n)}\}$$

を,

$$BS_{N_\xi}^{(k)} = \mathbf{0}$$

で計算

全ての k について方程式を解いて N_ξ を導出可能

実験結果 (oddIC)

oddIC に対する攻撃 ($q = 2^8$)

ℓ	3	3	5
n	69	138	35
k	23	46	7
time[s]	1353.1	73814.7	82309.1

実験結果 (2IC-)

(線形)2IC-に対する攻撃 ($q = 2$)

n	40	60	80
k	20	30	40
r	10	15	20
time[s]	317.3	2021.3	7725.6